

2023年度 第2回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2023年 9月 21日（月）10時～  
場 所 六会中学校 第1会議室

|      |   |
|------|---|
| 出席委員 | 五十嵐 直美（六会地区青少年育成協力会 会長）<br>大石 由佳（六会中学校 校長）<br>滝内 洋子（学園都市むつあい協力者会議 会長）<br>平岡 善通（天神地区社会体育振興協議会 会長）<br>堀田 英二（六会地区自治連合会 会長）<br>堀口 陽子（六会地区民生委員児童委員協議会 会長）<br>梶水 宏（桜ヶ丘自治会 会長）<br>江添 達男（六会市民センター長）<br>玉置 日菜子（六会地区担当 CSW）<br>浅場 純子（六会中学校 教頭）  |
| 次第   | 1. 開会 校歌斉唱 大石校長挨拶<br>2. 議題 「地域における学習支援について」<br>3. 各委員から<br>4. その他<br>・校舎見学及び六陵祭文化部門 展示見学<br>・六陵祭文化部門 ステージ発表動画視聴<br>5. 閉会  |
| 協議内容 | *2について<br>（質問）<br>Q：別室の学習支援の方法について聞きたい。（堀口委員）<br>A：各自、主に持参の課題に取り組む。（大石副会長）<br>Q：集団が苦手な生徒もいる。別室は集中して学習できる環境となっているのか。（堀田委員）<br>A：あえて時間をずらしたりはしていないが、2時間という利用時間の枠があるので時間差が出来て、少人数が過ごす場となっている。（大石副会長）<br>Q：学校に来られない生徒を、他の生徒はどのように思っているのか。（堀口委員）<br>A：双方気にする様子は見られず、クラスの生徒たちの受け入れ体制は整っていると感じている。（大石副会長）<br>Q：ネット、ゲーム依存の子どもが多いと聞くが、学校に来られていない生徒はどのように家で過ごしているのか。学校は把握をしているのか。（江添委員）<br>A：担任が保護者と連絡を取り把握をしている。家に居るとゲーム等をする時間が増えて昼夜逆転する子どもは多い。（大石副会長）<br>Q：防犯の観点からも学校は外部からの人材をなかなか受け入れられない。どのように受け入れを行っているのか。（江添委員）<br>A：事前に面接をしてから受け入れるようにしている。（大石副会長）<br>Q：不登校の生徒も卒業証書をもたらえるのか。（梶水委員）<br>A：卒業認定を受け卒業している。（大石副委員長） |

Q：不登校生徒の親が学校に相談するケースはあるのか。外に出てほしいと思う親が多いのではないか。(堀口委員)

A：親からの相談は多い。子ども自身があえて登校しないことを選択しているケースもあると全国的には言われている。(大石副委員長)

Q：不登校生徒と教員はどの程度コミュニケーションをとっているのか。子どもの好きなことを情報として得て、伸ばしていったらよい。親が求めるのは生きる力を育てていくこと(江添委員)。

A：担任は把握をしている。何か特定のことに長けているという生徒もいるだろう。(大石副委員長)

(意見)

- ・市民センターの学習支援については、主に外国につながるのある子どもを対象にしている。プラザむつあいの人材センターやチームふじさわ2020などで学校での学習支援に協力できる人材はいるかもしれない。(江添委員)
- ・学習指導をするには教員免許が必要ということで、郷土づくりと人材センターの事業では対応が難しいかもしれないという話が以前出た。(五十嵐委員)
- ・学習支援ボランティアと不登校の問題は別に考えた方がよいのでは。不登校についてはある程度家庭でも声かけが必要と思うが、家庭の方針などのケースもあると思われる。(五十嵐委員)
- ・不登校の状況も、家庭背景は様々なのでケースバイケースで対応せざるを得ない。学習支援については、社協のボランティアセンターで人材を紹介できるかもしれない。上手く地域の力を借りられるとよい。(玉置委員)
- ・今は教育を受ける「義務」ではなく「権利」の時代。個別に対応していくことが大事である。(江添委員)
- ・別室登校している生徒に対する取り組みと、登校できていない生徒が登校できるようにする取り組みは区別した方がよい。登校することが目的なら、必ずしも学習目的でなくてもよい。(江添委員)
- ・不登校生徒の好きなこと、興味関心のあることを学校も把握し、個人に寄り添いながらその力を伸ばしていける関わりがあるとよい。そのような事が分かってくると、地域でも協力できることが見えてくるかもしれない。(江添委員)
- ・様々な家庭の背景もあり、ケースバイケースで対応していくしかない。(玉置委員)
- ・幼稚園や小学校など早期からSOSが見えてくる場合もある。早めに地域が気付いて介入できると状況も変わってくるのではないか。(五十嵐委員)
- ・生徒の好きなこと、得意なことが分かると、地域で協力できることも見えてくるかもしれない。あるニュースでは、中学校で不登校だった生徒が、eスポーツで進学し人生が変わったという例があると聞いた。(江添委員)
- ・ネットやゲームで昼夜逆転している子どもも、そういった分野で才能を持っていることもある。大人が頭ごなしに禁止せず、応援する姿勢でいることも大切かもしれない。(堀口委員)
- ・コミュニケーションがなくてもできる仕事が増えてくる世の中となっていく。学校でコミュニケーションの大切さを教えずらくなることもあるが、自分の能力を發揮してそれぞれの幸せな人生を歩めるように後押しする、という視点で考えていく必要があるかもしれない。(大石副委員長)

次回開催日程 12月13日(水)10時～  
会 場 六会中学校 第1会議室